

# 自分や周りの人を大切にできる子どもたち

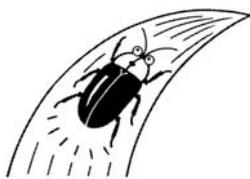
相手の気持ちを考えられる子ども、自他の命を大切にできる子ども、互いに支え合える子どもを育てることは、教育の大きな目標の一つです。そのような心の醸成を図るために、命の尊さにふれる体験が進められている町内の小学校の取り組みを紹介します。

## 命の尊さを感じる 「ホタル観察から」

「わぁー、卵の中で幼虫が動いているよ。」孵化が間近なホタルの卵を顕微鏡で覗いた子どもたちの驚きの声です。生まれたばかりの幼虫の大きさは約1mm。6回ほどの脱皮を繰り返し、9か月かけて約3cmまで成長します。「先生、幼虫が皮をぬいでいます。」出てきた幼虫は白い色に変わっています。「ホタルの観察をしている教室では、このような発見の連続です。」

昨年の12月に、子どもたちは、育ててきた200匹ほどの幼虫を、ホタルたちのふるさと岩戸川に、「ホタルさん、元気に育つてね。」と声を掛けながら、そっと戻してやりました。

この6月には、夜空にイルミネーションのように明滅するホタルの乱舞が見られました。「わだしたちが育てたホタルだ。」子



どもたちの願いが叶ったのです。「ホタルが戻った、来年も見たい。」という新聞への投稿もあり、地域の方々とも喜びを共にできました。

一連の命のはぐくみとかかわる中で、子どもたちは、その神秘性や尊さを感じ取ってきています。今年もホタル観察は続けられ、教室では、ホタルの話が飛び交っています。

## 命の尊さを伝える 「人権の花運動から」

「花を見て、毎日笑顔でいてほしいです。」このような気持ちを込めて、養護老人ホーム「葉山荘」に、子どもたちが育てた花のプランターを届けました。おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔に、2学期の交流で再会できることを楽しみにして学校に帰りました。

本年度は、「人権の花運動」の取り組みを進めています。子どもたちは、種を蒔いて、本葉が2、3枚出たころ、一つ一つポットに移植して、たくさんを苗を作りしました。花だけでなく、一

人一人の思いも伝えようとメッセージを添えてプランターを届けたのです。

また、学級の花壇は、自分たちで花のレイアウトをしています。それは、学校に來られた地域の人たちに、より楽しんでもらうためです。毎日水をかけるなど、花壇を大事にする姿も見られるようになっていきます。校門を入った所にある学校園も、環境委員会の子どもたちが、汗を流しながら丁寧に苗を植え付けていました。

これから、子どもたちが大事に育てた苗が次々と花を咲かせ、みんなに安らぎを与えてくれることでしょう。

11月には、採れた種を風船に付けて飛ばす予定です。どこかの誰かに、種とメッセージが届き、花の命がつながり交流が生まれることを期待しています。

体験をとおして、命あるものにふれたり、感動を共有したりすることは、豊かな感性をはぐくむことにつながるものと思います。そのような感性を土台として、自分や周りの人を大切にできる子どもたちに育てていきたいものです。

益城町教育委員会

## ふるまの 地名遷移

# 歴史の変遷と地名

325

### 矢嶋姉周辺⑩

前号に記したように、鶴子の教育は、「してみせて、言つて聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かぬ」の言葉どおり、率先躬行と実物教育の実行でした。「世の中は、ただだまめ(忠実)なれや、まめ(誠実)なれや、辛き仕事に身を砕きても」と事に当たっては常に体当たりの姿勢でした。豆の歌として有名です。

### 家政

当時の女性の必須の料理、裁縫は言うに及ばず、読み書き算盤をはじめ、養蚕、糸紡ぎ、機織、味噌・醤油の仕込み、そして、酒の醸造までこなし、その実技を矢嶋家の娘たちは厳しく躰けられました。鶴子は、裁縫が実に上手で、木山在住の頃、近くの木山神宮の祭礼の日などは、娘たちに手製の鹿の子絞りの上品な髪飾りをつけさせ、近所の人を驚かせたと言います。

### 基礎教養

鶴子は、惣庄屋の娘としての教養を身につけていました。矢嶋姉妹は、それを授けられました。

それは、鶴子自筆の百人一首や古今の序であり、三十六



四賢婦人記念館に保存されている矢嶋楯子が使ったとされる機織機

歌仙などで、習字の手本でもありました。例えば、楯子が林七郎に嫁いだ時、嫁入り道具の中に手織りの衣服や布団とともに女大学や四書五経の写本が入ってあったそうです。

また、墨絵も四君子を描く絵心も素養の一つとして学ばせました。

その頃の女性は、自分の嫁入り支度の衣服は、自分で縫うのが常識でしたから、裁縫は必須の技術でした。娘たちは、日々の家事を手伝い、裁縫を習い、糸紡ぎの間にも、女大や四書五経を母から口述講義を受け、時には兄の直方からも漢学を学び、婦人としての教養を身につけていきました。このほかにも三味線、琴や笛などの音曲も母からばかりでなく、師匠を招いて指導を受けました。

益城町文化財を訪ねる会  
会長 松野國策